

Dreamer's only

# 夢追い人

## 日本の六社に選ばれる

### 国際家具見本市

### 「ミラノサローネ」に出展



(株) 添島勲商店がイタリアの国際家具見本市「ミラノサローネ」に四月十六日から二十一日まで出展。これは、経済産業省が後援し、推進する生活関連ブランド育成事業(通称・sozo-comm)に選定されたためだ。三三六社のうち一次審査を通過したのは

一二六社。二次審査を通過した三十八社と共に添島勲商店は、二月にドイツの「国際家具見本市アンビエンテ」に出展。そしてこのたび、さらに絞り込まれた六社の一つとして選ばれたのだ。大変な競争率である。他にイヨベ工芸社、カリモク家具販売、

コスガ、マルイチセーリング、リッツウエルが出展した。「ミラノサローネ」は、ケルンと並ぶ世界最大の家具見本市の一つ。日本の家具関係企業が出展するのは史上初である。これには甘利経済産業大臣が、イタリアの貿易大臣に直訴して実現した経緯が

(株) 添島勲商店  
社長 佐々木 徹さん



甘利経済産業大臣をかこむレセプション  
(右端が佐々木さん)





ハイスツール/High Stool

ロースツール(オットマン)/  
Low Stool (Ottoman)

ラウンジチェア/  
Lounge Chair

ローテーブル/Low Table

スツール/Stool

ある。三十四万八〇〇〇人が来場した。昨年比二十九%の増である。

社長の佐々木さんは、「我が社を含めて日本ブースには大きな反響があったと思います。」と語る。商談も多かった。その背景をこう分析される。「最近のヨーロッパ市場は、プラスチックや金属を使った家具など、多少行き過ぎた面があるように思われます。また今回は売り上げを狙った商品が多かったようです。一方、日本の家具は造りが精緻、素材の良さ、面白みが際立っています。この点が受けたのではないのでしょうか。当社に



関しては、日本古来の草表現がよかったのだと思います。」

添島勲商店の商品は、この展示会の好評価を受け、あるイタリア企業のショールームに展示されることが決まった。

添島勲商店が、今回展示した商品は「IGSA series」。「花ゴザ」と家具の融合である。ラウンジチェアやローテーブルなど五種類を揃えた。デザイナーは清水慶太氏。このシリーズは、国内百貨店、インテリア店やスイス、ドイツなどの海外バイヤーから問い合わせが相次いでいた。

そして、佐々木さんは「見かけは違いますが、大川の家具生産技術を相当生かしている面があります。たとえば、プレス加工技術などです。それに、SAJICA“に参加して得たノウハウが力になっています。」

また「海外進出を進める企業はSAJICAに加わるか、研究することがいいと思います。SAJICAは、海外戦略のノウハウを身につけつつあるからです。たとえば、専門の営業スタッフを持っていきます。これまでは展示会でインパクトがあった商品について、フォローをするといったことのみをやっていました。これではだめだと思おうのです。この点SAJICAは、エージェントやディストリビューターなどを用いるヨーロッパ企業の手法に近づきつつあります。」

SAJICAや先進性のあるユニーク事業展開を見せる添島勲商店の姿勢が、また一つミラノサローネで実を結んだ。